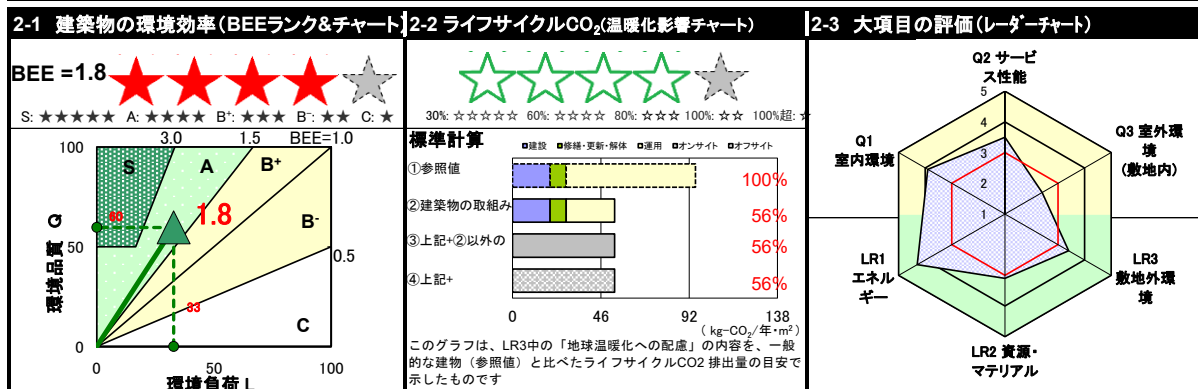
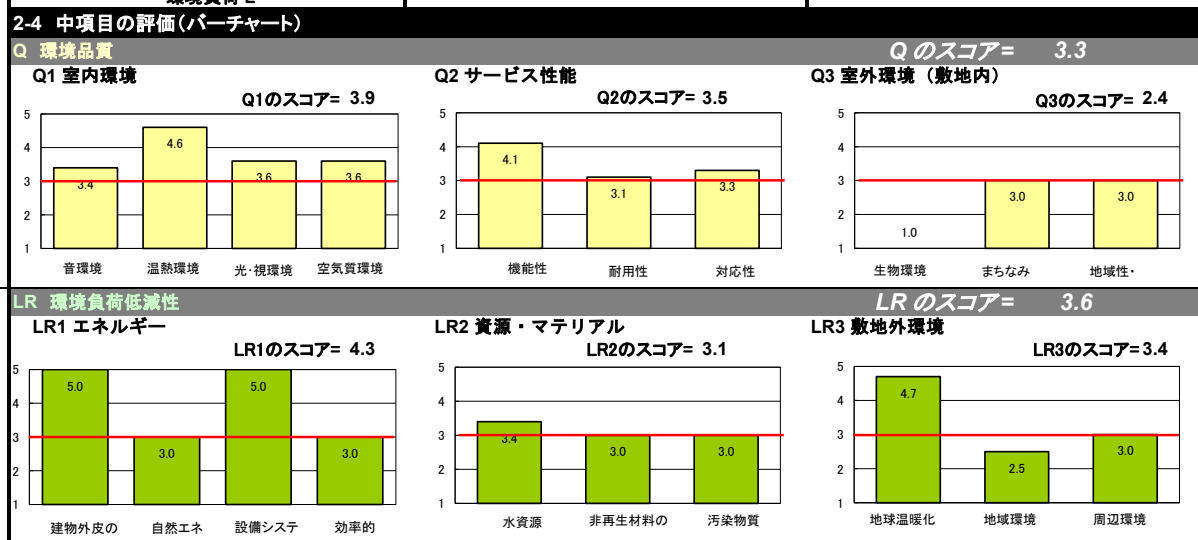


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)リコット豊田神田町	階数	地上13階
建設地	愛知県豊田市神田町一丁目4番2、4番3	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域	平均居住人員	180 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2028年8月 予定	評価の実施日	2026年5月7日
敷地面積	1,145 m ²	作成者	柴田 紀行
建築面積	414 m ²	確認日	2026年5月13日
延床面積	3,886 m ²	確認者	成瀬 徳行



3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
4.7	1.0
	<p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>16.6 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
②資源の有効活用	④地域材の活用
3.0	1.0
	<p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3.1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2.2 耐用性・信頼性、Q-2.3 対応性・更新性

LR-2.2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3.1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$ 建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$ 

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

((仮称)リコット)豊田神田町

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目		独自基準	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体
		重点項目									
Q 建築物の環境品質											3.3
Q1 室内環境							0.40			-	3.9
1 音環境					0.1	3.0	0.15	3.5	3.5	1.00	3.4
1.1 室内騒音レベル					3.0	3.0	0.50		3.0	0.50	
1.2 遮音					0.5	3.0	0.50		4.0	0.50	
1 開口部遮音性能				住戸のサッシはT-2とする	-	3.0	1.00		5.0	0.30	
2 界壁遮音性能					-	3.0	-		3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				日本建築学会「建築物の遮音性能基準と設計指針」床衝撃音レベルに関する適用等級1級に適合	-	3.0	-		4.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				日本建築学会「建築物の遮音性能基準と設計指針」床衝撃音レベルに関する適用等級1級に適合	-	3.0	-		4.0	0.20	
1.3 吸音					-	3.0	-		3.0	-	
2 温熱環境					0.3	2.4	0.35	5.0	5.0	1.00	4.6
2.1 室温制御					0.5	3.0	0.50	5.0	5.0	1.00	
1 室温					3.0	3.0	0.63		-	-	
2 外皮性能				住宅性能評価 断熱等性能等級5を取得	3.0	3.0	0.38		5.0	1.00	
3 ゾーン別制御性					3.0	3.0	-		-	-	
2.2 湿度制御					3.0	3.0	0.20		-	-	
2.3 空調方式					3.0	1.0	0.30		-	-	
3 光・視環境					0.2	3.3	0.25	3.7	3.7	1.00	3.6
3.1 昼光利用					0.3	4.2	0.30	3.5	3.5	0.50	
1 昼光率				共用部2.5%以上・住戸按分1.5%以上	3.0	5.0	0.60		4.0	0.50	
2 方位別開口					-	-	-		3.0	0.30	
3 昼光利用設備					3.0	3.0	0.40		3.0	0.20	
3.2 グレア対策					0.3	3.0	0.30	4.0	4.0	0.50	
1 昼光制御				カーテン・庇を組み合わせ昼光を制御	5.0	3.0	1.00		4.0	1.00	
3.3 照度					3.0	3.0	0.15		-	-	
3.4 照明制御					3.0	3.0	0.25		-	-	
4 空気質環境					0.2	3.6	0.25	3.6	3.6	1.00	3.6
4.1 発生源対策					0.6	4.0	0.60	4.0	4.0	0.63	
1 化学汚染物質				F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用	3.0	4.0	1.00		4.0	1.00	
4.2 換気					0.4	3.0	0.40	3.0	3.0	0.38	
1 換気量					3.0	3.0	0.50		3.0	0.33	
2 自然換気性能					3.0	-	-		3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮					3.0	3.0	0.50		3.0	0.33	
4.3 運用管理					-	-	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視					3.0	-	-		-	-	
2 喫煙の制御					3.0	-	-		-	-	
Q2 サービス性能					-	-	0.30	-	-	-	3.5
1 機能性					0.4	2.3	0.40	4.4	4.4	1.00	4.1
1.1 機能性・使いやすさ					0.4	1.0	0.40	5.0	5.0	0.60	
1 広さ・収納性				充分な光機器スペースを確保	3.0	-	-		-	-	
2 高度情報通信設備対応					3.0	-	-		5.0	1.00	
3 バリアフリー計画		独自			3.0	1.0	1.00		-	-	
1.2 心理性・快適性					0.3	3.0	0.30	3.5	3.5	0.40	
1 広さ感・景観 (天井高)				LD及び洋室の天井高2,600とする	3.0	-	-		4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース					3.0	-	-		-	-	
3 内装計画					3.0	3.0	1.00		3.0	0.50	
1.3 維持管理					0.3	3.5	0.30	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計					3.0	3.0	0.50		-	-	
2 維持管理用機能の確保				ごみ一時置場、倉庫を設置	-	4.0	0.50		-	-	
2 耐用性・信頼性					0.3	3.1	0.31	-	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振					0.4	3.0	0.48	-	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					3.0	3.0	0.80		-	-	
2 免震・制震・制振性能					3.0	3.0	0.20		-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					0.3	3.3	0.33	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数					-	3.0	0.23		-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②			-	3.0	0.23		-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					-	3.0	0.09		-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					-	3.0	0.08		-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				給水管は水道用耐震型高性能ポリエチレン管(AW)を使用(M-01図)	-	5.0	0.15		-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔					-	3.0	0.23		-	-	
2.4 信頼性					0.1	3.0	0.19	-	-	-	
1 空調・換気設備					3.0	3.0	0.20		-	-	
2 給排水・衛生設備					3.0	3.0	0.20		-	-	
3 電気設備		②			3.0	3.0	0.20		-	-	
4 機械・配管支持方法					3.0	3.0	0.20		-	-	
5 通信・情報設備					3.0	3.0	0.20		-	-	

3 対応性・更新性			0.2	3.1	0.29	3.4	3.4	1.00	3.3
3.1 空間のゆとり			-	-	-	3.8	3.8	0.50	
1 階高のゆとり			-	-	-		5.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			3.0	-	-		2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	-	-		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			1.0	3.1	1.00			-	
1 空調配管の更新性			-	3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性			3.0	4.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22			-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.30		-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出			-	1.0	0.30		-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			-	3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	3.0	0.30		-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			-	3.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.6
LR1 エネルギー				-	0.40		-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制			住宅性能評価 断熱等性能等級5を取得	3.0	5.0	0.33		-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.17		-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.74	3.0	5.0	0.33		-	5.0
4 効率的運用				0.1	3.0	0.17		-	3.0
集合住宅以外の評価				-	-		-	-	
4.1 モニタリング				3.0	-		-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	-		-	-	
集合住宅の評価				1.0	3.0	1.00		-	
4.1 モニタリング				-	3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制				-	3.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30		-	-	3.1
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15		-	3.4
1.1 節水			キッチン水栓:節湯B+C1 便器:大4.8L 小3.6L	3.0	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	1.00		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	-			-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.0	0.63		-	3.0
2.1 材料使用量の削減				-	3.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				-	3.0	0.21		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	1.0	0.21		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				3.0	5.0	0.25		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			配管・配線が躯体及び仕上り材に打ち込まれていない	0.2	3.0	0.22		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68		-	
1 消火剤				-	-			-	
2 発泡剤(断熱材等)				-	3.0	1.00		-	
3 冷媒				3.0	-			-	
LR3 敷地外環境				-	-	0.30		-	3.4
1 地球温暖化への配慮			① ライフサイクルCO2排出率56%	-	4.7	0.33		-	4.7
2 地域環境への配慮				0.3	2.5	0.33		-	2.5
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.0	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減			独自	-	3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制			独自	-	3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制			住戸数の2倍の駐車台数を確保、駐車場入口と出口を分ける(渋滞緩和)	-	4.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制				-	2.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33		-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40		-	
1 騒音			独自	-	3.0	1.00		-	
2 振動			独自	-	-			-	
3 悪臭				-	-			-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40		-	
1 風害の抑制				-	3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制				-	1.0			-	
3 日照障害の抑制				-	3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策				-	3.0	0.70		-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	3.0	0.30		-	

重点項目スコアシート
【仮称】リコッタ豊田神田町

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点		全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策					4.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.7	0.10		
② 資源の有効活用					
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09		
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.09		
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19		
③ 敷地内の緑化					1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:16.6%/建物緑化:0%	
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0	
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)リコット豊田神田町

計画上の配慮事項	
総合	外装にはグレーや白、ベージュを採用し、周辺環境に配慮。 断熱性能及び熱負荷抑制に配慮し、省エネ性が高まるよう計画。
Q1 室内環境	シックハウス対策としてF☆☆☆☆を全面的に採用。 節水型トイレ、エコジョーズ、節湯器具を採用。
Q2 サービス性能	CATVやインターネットの集合一括サービスによる情報通信設備の充実。 また、管理室を設け建物の維持管理に配慮。
Q3 室外環境(敷地内)	防犯カメラの設置、遠隔監視システム、オートロックシステム、侵入防止格子 等により防犯性に配慮。
LR1 エネルギー	外壁の断熱性を高め、共用部の照明はLEDを採用するなど消費エネルギー の低減に配慮。
LR2 資源・マテリアル	有害物質を含む材料を極力使用しないようにし、 各接着剤料は化学物質の排出がないものを使用。
LR3 敷地外環境	騒音等 法令を遵守し、地域環境に悪影響を与えないように配慮。
その他	